



七部拾遺

下



5  
1861  
2





1. Die erste Art der ...  
 2. Die zweite Art der ...  
 3. Die dritte Art der ...  
 4. Die vierte Art der ...  
 5. Die fünfte Art der ...  
 6. Die sechste Art der ...  
 7. Die siebente Art der ...  
 8. Die achte Art der ...  
 9. Die neunte Art der ...  
 10. Die zehnte Art der ...







淡月そそ先のうねといさうんを

人しそりしけりし

よほつふをんやそりよの玉は本 嵐雪

若菜

若菜指し本を割るけり 越人

草たちや玉糸あつりハ美みの 百里

つらとつしよの喉へハ菜屑分 冬文

聖にこそ小錦の中へハさき茶 東流

鶯

鶯やまおろしひの意おりろし <sup>土才</sup> 調武子

くろし寸のちとろそん小指神 嵐雪

梅在共中 鶯あしり 時流 山川

鶯のちやほしきろし 重乃綿 桐雨

梅

縹鏡 疎りくしやまろのろ先 秀和

梅乃玉 沈みや射舞多ハとし 才磨

梅ころそと 編笠やよそ 煉ひは 仙化

葉垣系 梅ふくし 子 宿有

梅の香ハいふ工むそ 宿有

七弦

破し陸をまろろかろろ 子英

浦く乃ちろし 帆かろそ 風洗

重乃綿をたし

家おもろし 月下







清心ありくうくぬり非 調栞

清心ありくうくぬり非

わろろろりくも心にけりく水 青女

花の伝ふ水や馬いし山もさく 鋤立

あやふんさそ行るふそと来せし 石蓮

花よりと朝を二つ又初り 暁雲

むにまきく寝そそりのはる水 暁雲

西や波新め下よそけり大海 桐雨

退てるふより水も玉踏本後水 好栞

それらくそそそ懺悔せん罪一つ 風子

初らうくおひて

玉のを大は雪砂ふそつりる月下

多遊ん多笑にけり子付たを

むきやちくそを鳴まの独布 菊峯

あふもや男も弱くも毒の山 百里

思夜栞

あはくくくや大園様の栞栞 孤屋

下戸くくやかたれ水山ささく 孤屋

葉そくりちりのそりそ栞栞 若荷

あふくくく

せう後あふくく水くやんく山 桐雨

汲かろく小縁たかきささく水 桐雨

そく教くくく人あせ山栞 一有



すさくし 雪ふ人けあつら 楓木 立吟  
流うけのさうらにのみある夕日か

輪門様薨御をおぼれしつゝちまひて

物いも 冬ん 山さうら 不角

横川をわきくさう山をまわす

さくし 一かやふくさかきまへり

藤木より 長か いや 戸と 楓 嵐雪 専跡

人かそのをを 冠わし 楓が 専跡

帝尊

夕之れのそおくさや 巾風巾 才磨

柳足り 諸か ちうららたやきりら

け夕新 瑞 冪らぬいりのほろ 嵐雪

みのほりふれあし 雲うね 山と

渾邨

遠き方より 竹小舟 風洗

游縁

かけろふさくし 矢の尻む 山川

いしゆたにらう 色をまの古縁 乱縁

糸ゆつ 巾口をぬく 氷花

病中

ほろくと 糸 舟 才磨

糸ゆつ 巾 舟 紐立

柳きり 糸 舟 舟雪

かけろふ 舟 湖舟



糸持平くうりてかりく 魚の上 立志  
陽去り此 昼くを 舟中 乃ききさか 達暑

鮎 附白魚鮎

鮎 鮎は 鮎に 鮎は 鮎に 鮎に 鮎に  
白魚も 乃ききさか 鮎に 鮎に 鮎に 鮎に  
鮎に 鮎に 鮎に 鮎に 鮎に 鮎に

雉

一 亦も 之 亦も 亦も 亦も 亦も 亦も 亦も  
一 亦も 之 亦も 亦も 亦も 亦も 亦も 亦も  
一 亦も 之 亦も 亦も 亦も 亦も 亦も 亦も

海苔

ゆくもや 何や 何や 何や 何や 何や 何や 何や  
海苔 海苔 海苔 海苔 海苔 海苔 海苔 海苔  
和田 乃 海 下 乃 海 下 乃 海 下 乃 海 下  
志 不 海 下 乃 海 下 乃 海 下 乃 海 下

寒食

寒食 寒食 寒食 寒食 寒食 寒食 寒食 寒食  
寒食 寒食 寒食 寒食 寒食 寒食 寒食 寒食  
寒食 寒食 寒食 寒食 寒食 寒食 寒食 寒食  
寒食 寒食 寒食 寒食 寒食 寒食 寒食 寒食

鞞



蹴毬の多りついでにやせ後早

音精飯

相柳民徳やうそ菜飯う形 嵐雪

猫憲

猫乃意端もろくはありし之 琴風

老猫乃尾も形し悪の互は 百里

かろ猫の之をもかろおろし 松風

猫乃五窓あそむの貝や片とひ 秀和

猫めまきやうひて

猫の妻いうあそ君のくそひり 嵐雪 妻

雲雀

杉の木とまね親よのほろそとをな 氷花

五葉口

馬さきも紅いとつハニのやあはら 李由

羽にうけて赤きまのやまよひをな 溜橋

上己

綿とうそ形ひちきりうり 其角

窪園もは生力方乃るああ 露沾

窪く窪んぬくく小家うれ 嵐雪

婿いふもあつたおのこころ 専跡

新ぬめと物ありひねりうめひ形 霜白

大あり一条の後の法教子おひて

大丸と名付ちちとちほおおとら乃

おひんていひるうを志のんて

大丸すかつてせきをよきあめあ 山と



山崎乃栲竹つてこよ雛花以全

妻におよぶて雛の内の娘の雛と悦び

主婦雛姑のそとにいしせん 達暑

眉ぬりて虫喰雛の悪女うそ 一口

雛乃をを返出さすは 東雲

四日

朝霧の栲竹のそとに 曙の雛 曉雲

はなふも中よき 雛乃花は 笠下

辛夷

ゆき水の鳥にうりらるる 梅車

蝶

襟かろく 湖春

五葉八

鷗尾やそくねす襟乃嵐夕 嵐蘭

上飛より降りて

海よりきき人にかくまらるる 嵐雪

沖乃襟汐さすをを 才磨

苗代

たろくろにいそぬあつたさか 子英

まろくろにいそぬあつたさか 氷花

うらくろにいそぬあつたさか 一有

耕牛毎宿食倉鼠有餘糧

多うやまも嵐の米をえら牛つら 笠凸

うらくろにいそぬあつたさか 去来

蛙



空嵐のちつて夜あつとそや竹枝 野水  
あつとけん桂にあつと 露のあつと 氷花

三十三万四千

富夫官

乞食も物も少くせし 六花  
二階まで蛙さく 蛸はさる 溜橋  
蜂もさく 己とあやむかりか 和賤

蝦蟆温とうやつるをのうく  
やうて 影る 蟻のやうにたるとし  
て道あやこゆしとけなのおとく  
もまはしつくとおまをさく せんえ  
けりて 箱中のさく ことをあつとやけり

廿三袋九

さくさく 鏡よむうかりり 銀鉤

春ふ

まらあやめゆるえうり 紅雪

ゆ雁

何れもを田押す 子英  
ゆらかり 常す此 長雅

花

風あつて 志つる 杉風  
そくも 歩を 宗派  
山あつて 月下  
さうさく 風瀑

小奴吉舟にむをさく



小坊るこはあけかけん松千る 嵐雪

春艸

いろくのま子鯉くつるやけり 紅雪

木爪あふく楮そんく 山店

たのけまねのまかりく 夜章

女師公くねぬまよさ 舟竹

鳥手塚男たまきよ 杜英

まんほのおつこの月を仰 濠門

楳えんにおのりくふちり 榊玉

まよさくくにもちる 榊玉

おゆく魚の火んるまのま 沾徳

観水

五言

野游

一室の中をふたつ 沾荷

三月重

連流くまのあま 立吟

りま中おまにづく 山川

袋の底を拂ひけれ

ともあふを控ひ

乃介の教をみる

神祇

くま舟楳現



稲妻ふきかぬ神子目さぬれ 嵐雪  
近方あり西行よるよハ五る年 立吟  
空の園や多き此案をちんちつて 樗雲  
舎殿乃梅清浄一神の灵

八句

料戸乃風の吹放屋よのこく  
足るくちの鬼もこまぬ競る水 孤屋  
道はるも神勅を以て 嵐雪  
大人子ハイロ乃門をちるをて 全  
屋根上鉦矢亦乃重の屋 屋  
乃ち守巻三角拍乃大鼎 全

芒振嵐結子結ノニ 雪  
亞座小文のけたる神目板 全  
稲も子をお天乃益人 屋

奇事修る

陰るけ七時白の暮るん稲の神 一と

恒吉を納千白は油

ぬるういや神示指したかき 踏通  
まお乃乃祓区の志つてき神さぬ 百里

社頭時鳥

多をそく神灵笑一ぬ子親 涼葉  
おつ心そく桂花出る小初うぬ 景道  
燒繩乃敏繩も稲家乃助け分 月下



一乃ハキス海跡をいありり角山川  
言人の影アスくゆりか小空か 斧鉞  
為虚在矣

竹乃子とゆけをき何り神意 舟竹

至の下此格終ル者もよよの

社人なりりり

鎌とろく我負くく我社人うま 桐雨

芳野くけ人よとくく

祝子もむの名やせ神乃 場 一と

荏柄天神を納

こる道柳かこしけさこのあうくか 嵐雪

釈教 附哀傷

ちりかろく花より 撰ニ六乃 壘 東眺

六十五人決定往生

眠<sup>アホリ</sup>やあをいおけり乃たい衣 氷花

我等今日聞佛音教觀喜踊

躍と凌涌したてゆくありて

嬉しんよふ仰おとり此柄抄より 嵐雪

受持佛語作礼而已

そくしん来ルんをく 中はめむ 山川

摩點本のころを

うしものまろやさしも芥の中かろく 全

摩訶止規

目之羅不能得鳥得鳥之羅



唯是一目は文のころを

多きふ餅さし一掃の如く傍外 具角  
在襟中はくろく 極嘆よりり 雷笠

ぬるまき

船 征りつゝ 海をよる 舟とけ 月下

讀維

際とつらふ 芥子ハ 縁ナク 座敷ハ 翠江  
けし のて 死大ッ 尺ゆも 在襟中 鋪立

應益所住而生已心

勢乃 業中 行も ころも ありのき 卜と

木舎の 妻ま 喰けらる

新若 妻の 勢乃 妻に 名に 名に 名に 百里

孟蘭盆中 ぬるまき 老の 波 桐雨

如薪盡火滅

身乃 係や 厚け 中も ありぬ 秋の 身 素行  
きと 高紅 子に 傳へ 法ハ 形一 水山

殺生戒

いふ 中と 此虫 乃 命を ころし 傳り 卜と

形媼戒

瓶よ 妻痛 少く 中乃 ころころ

偷盜戒

望より ぬぬ ありき 風も 柱の ころ

妄語戒

ありり ぬのか ころき 世と 志れ 夷漢



飲酒戒

叶カクモのこころやとくや雪の夢

曉觀佛

疎々ぬ眼もさやと胸カ月 百里

夕聞經

唐土の施豚鬼力に志む夕水

夜尋僧

稲妻カ紙鳩情より秋は海

追善

くさやぬ様をこころ候まより 鬼貫  
月カおほらるる物たぬを 才磨  
海峯カ流もまふる夕月 未山

母を慕ふ

蓮カくさをもぬくむさる此乳腐る 風洗

讀九相詩

懐みおやち此陽屋の夢にち 年弓

十一年又年より夢カくおんりくま

弱とり此をこころや未カる夢 嵐雪

戀

さやちをくもよふくさむをゆき その

弱さのほろもよそのやぬをよ 百花

思ふ人をかきあうてあつらふ

さう藤入るるにかく夢のこころ



晴くつんあけしふをそまなうくく  
いとあさまし

山川

逢恨並

我恋や口もそのれぬまを鬼灯 嵐雪  
子細おぬよそそとあつしを 菊鈴  
古きて鈴鈴小虫あり恋のま 不障  
恋もれ罪戯情をよぬりくま 紅雪

後朝

水花

笠扇

抽力さき世あても恋し娘くま

山ぬくそ山よくまきみと娘くまみ

去来

寸木

若年を待

百里

巴洗

四睡

卜宅

不障

琴風

あろくーやそもねくそりそ若あ

身乃祓依免そんたて語を利



秋乃あやうきめめ妻のおお原  
 言と此出の千多傳ふあつ外  
 衣紙子似有しういふ  
 ふうきあをふかきあてん  
 よさうあま意ふまのや神  
 意ハ能もとりぬ命うれ  
 是アうと妹はくろいぬ之の門

山川  
 全  
 全  
 全  
 全  
 杜招  
 嵐夕  
 嵐

述懐

肩衣ハ戻りまをゆるる老の  
 於人やおこしうさうにみゆり

杉風  
 具角

炭やきしもまらぬ老のふゆ  
 百年の後のあき人やまを  
 け物あまありい出りり古紙子  
 年の市はあま葉中白述  
 三盆子こしたくくりまやまの  
 年のうしからひさうさるり  
 遊花  
 年乃市若きまらぬとて

涓掃  
 蕭山  
 普船  
 嵐雪  
 月下  
 全



其袋夏之部

更衣

名中をさるるれもありるる露沾  
 常ゆきしとて格なる衣の一有  
 赤はも之かさしくさるる女うぬ  
 日ころいも何やささりのと後継  
 者もあまはまさううるあり舟竹  
 常ふともかろうと女中らうもま  
 衣のまはる後継のそよそ一  
 神風中ふりし後めかさいつ  
 當歌

青簾

五位六位をこそさすますり  
 赤少まにまるといふなり後ま  
 空端まをけりやそめんまま  
 ろのり紅輪まをんをこま

嵐雪  
 月下  
 紅葉  
 才治

江上新樹

紫水乃勝しそめをさるる才磨  
 一さうつ、格端のふふさるる  
 沾荷

陽鳩

鏡や松古乃流乃かんこ  
 赤はすのぼるちあらんかんこ  
 拙捨ら山田まをまかかん  
 登色ふらうけく一さようんこ

氷花  
 調柀  
 舟竹  
 榴花



かんことり 煙子荒くく 畠うれ 楸下

鯉

小庵うまよそ 水ぬおる 籠くり 風吟

庵下りうーいううゑん

可居上 籠をともむあろー 百里

子規

春とてまに 新茶より 流るるのま 才磨

時多何を古井 力くまの以後 露沾

新乳山の 新乳よるを清く

元々 雲子 昼終 歌をぬりて 嵐雪

流るる中 喧嘩 ぼやーの 杜宇 立志

とる 煙ハ 表を 二條ぬ 山を 子規 秀和

杜鰓 水と 清く 八つ川 梅川

山さるあま

君とちの 日かきまぬ 水とる 親 桐雨

主將之法務 擊英雄之心

身人 小ハ 影より 身をり ぼと 宅

杉子 休む 下り 子い 川 蜀 露 立 霽

新ま ちと ころの 心志 舟 杉 宇 氷 花

二四 八々 隆々 魂の 表 舟 守 傍 門

流 舟 如 裡 とも 雲 舟 舟 翠 紅

ほと きた 陸 持 かく 吟 水 湖 水

おとあいは 炎 木 舟 とく

いこ ちげ ふう ち 舟 杉 鰓 夕 口



吃りてハほしくまんとヤさく水也 百里  
何と来ん 新をそんくうく 有馬 杜英

灌佛

アささる此新茶すくおさひん 音女  
灌仙中入おたり大併 百里  
灌併中隊鬼子坊かきんは

短夜

店乃おもみしくぬぬおて 岚雪

蟬

あぬか前しきふさくく 全  
あふとくそぬり出さししきん 當歌  
かひさくくさくさくハんぬ小隊か 不一

蚊到明

蚊乃さるの志くむまぬ 垢徳  
魚の骨火法よりさく 凡洗  
くちあけくさく

あつれとよりおにハんぬ 嵐雪  
鉄のくしたさるつく 孤屋  
蚊乃さるもやこわ前 北風  
さるのさる蚊とよひ 大柳  
蚊やり虫たぬいし 笑種  
麻もいさる龍いさ 音女  
化しおたり 桐雨



城分吟

新く九城よ警方警市九等友五  
麻ぬあま城をにへる嵐引富大官白盆

山雪

いふもあしころろしふのほくろ介 溜橋  
河くろ中や登れ是ききの是を以 月下  
奪りあてぬくろろしちる是を 已百

渙父

兼干く新くぬくろろしちる是を 山雪

腐州堂とぬく

杜もあしころろしふのほくろ介 卜宅  
とやきぬを何と志ろろしちる是を 立志

冬蟬

杜若

咲中にほそえうりかさつそく 未山  
里沼のそそしえまのあつりこカ一泉  
志のそそえうりこせと中杜若 一徳

精附川獺

かてそそえうりこせと中杜若 琴風  
移ろろしふのほくろ介 氷花  
かつお上星のむすぬ移川水 湖舟  
櫓カ細うろろしふのほくろ介 舟竹

照射

弓林よそよそと顔のそよめ 山嵐雪



端午

菖蒲乃まきよあかき湯な右ちよ 立志  
 傘をうり苦のくしきるあうき 青女  
 花衣のまき揚る中はほり水 百里  
 人とやかくしをすくは昔昔 湖水  
 銅乃桶子くうまはあやめ水 笠下  
 伏見まよとまよあてあまこは梅よ  
 多々を流のくまおてまき 山  
 卯地  
 ありあ人にあくし平地のくく 嵐雪  
 たるしこの山は平地かりく 立志

競馬

色乃くくやまをれ競子んさくめす 氷花  
 人のまもかくまきくくく競る 山川

瓜

水取ふかいうぬ瓜のまつくく 其角  
 お瓜と妹をいそめん親ひより 巴風

五月五日 廿五日

左きく水のくく中や 陸の獨断 立吟  
 さきく水はほり水にさかる地のくす 氷花  
 たまこをて攪くくくを女月日 溜橋  
 さきく水は 居る路乃まきくく 調栞  
 みるくくくを 居る路乃まきくく 山川  
 出んまきくを 居る路乃まきくく 十千



五つに雲の虫をもちたぐりあり 楸下

溽暑

妻も有るもある家力も異なりぬ 氷花

日力も空もさるる力もけりる異なり 信徳

二孫もさるる松をわたりあつさ 細石

水も月や影も白夕日もさるる 雪江

るものなり懐き旅のさや 嵐雪

るものなり懐き旅のさや 嵐雪

納涼

志もさるる石もさるる 立志

魚もさるるさるる 夕口

玉川もさるるさるる 紅雪

梅の風をさるるさるる風をさるる

さるるさるるさるるさるるさるる

なまきりも本城すし 山川

折るる折るる

四五条の力もけりるさるる 尚白

折るるさるるさるるさるるさるる 傍門

豚もさるるさるるさるるさるる 笠凸

法

湯もさるるさるるさるるさるる 立志

折るるさるるさるるさるるさるる 調柄

折るるさるるさるるさるるさるる 亀翁

大に途大を道ありさるるさるる 嵐雪



角田川を下りて

きりぬハ一とまゝにそりぬる帆をか 其水  
清き 附心方

かゝるは海を渡る舟はほろろ 尚白  
あそむはほろろありいかなる舟はほろろ 舟行  
長瀬のきりぬるはひやをうろろと

まの車はまゝにまゝにまゝに 尚白  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに 尚白

扇 附心方

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに 尚白  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに 尚白  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに 尚白

小あまのそ 肌めつめよあまのそ 傍門  
あつたより 男あまのそあまのそ 立吟

蠅

くつろくまのそあまのそあまのそ 紅雪

抜 鈕 逐 蠅

蠅とらまのそあまのそあまのそ 嵐雪

祇 屋 客

屋根はまのそあまのそあまのそ 百里

鋒よまのそあまのそあまのそ 其角

山ハ折れまのそあまのそあまのそ 一三

雲 中 年

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに 桐雨



佃ウキ

重カクミヨク解リ上キヨ土圃波 百里

夕立

ゆわくちに呼いこまらし拍うぬ ろめ

夕立もちや坊あかき霧め片曇 山川

夕たち方中る中いつくた下路えん 鬼貫

夕ちちと流りてあまのしう鳥 随友

ゆつちや池のそわと北あきくま 傍門

とよきー聖あきく

夕ちちやー北下路あやとり <sup>甲府</sup>梅庚

蓮

とらうーや道にんくまみろん 湖春

白鷺不禁塵土泥

白鷺る布玉ふる比のそち守伝 菊离

ホ子オリ

田畠に辛若もあきさそち守伝 己百

麻

機麻さうらう夕もありん出は 桐雨

いふふそ紡織ようらん機麻 杜格

おほらら麻刈ル詠めあきち海 月下

蝸牛

かこつり石に着くさきさきさ 氷花

妍かき女乃鬼をかこつり 百里

かこつりてりかきさきさきさ 月下



夏衣

帷子此まき子悪ハ何のたきかを也 冰花

やうきかかろこくけ子

まの衣妹まめあてすのくもを 尚白

夏草

やまふま此まき子集は力いちこふ 虚洞

あつてけいりく上りーあつていんか才磨

やまーさ中流少まのく寸必あやめ尾清風

既ちまきまをいれ馬ハ齒ヒ莫ヒ笑扇

まきまをいれまきまをいれ

ふんろ局中かーいれまきまをいれ 嵐雪

まきまをいれまきまをいれ 柳立

夕影まきまをいれまきまをいれ 素親

乃ばまきまをいれまきまをいれ 為睦

さうまきまをいれまきまをいれ 年弓

光廣もまきまをいれまきまをいれ 湖水

一房をまきまをいれまきまをいれ 遠水

候と此の物也まきまをいれまきまをいれ

東叡山乃まきまをいれまきまをいれ

まきまをいれまきまをいれ

まきまをいれまきまをいれ 緑絲

池上ふき

山乃此溜りまきまをいれまきまをいれ 舟竹

男をんるあやまきまをいれまきまをいれ



な癒のを並つる人と又く是る中 凡子  
その白き塔子深しう赤子後 魚見  
る井か一まつるうし月め隈 苔翠  
庵しそぬありいと麻丸袋角 トト  
足ぢる此石をたたく多勢が 李下  
水札鳴ると日影ちろつくはが 一泉  
字士をたんと身をかりながらおぼろ 菊白  
こね月にあきその見えふしの香 涼葉  
まつらすりの香をととるうし水の中  
露とよろひまきらうは魚らりの  
る此中をととりらもたうしうて  
こころをうけんて尺くしたるうも

大小丸中にまんろろをさうぬ

よの中をまろろ守かニ一小餘美 其角  
なまをまろろ守かニ一小餘美 其角

妻驪詣

行程二里余丸橋すうさまろろ  
しうし袋をくさしそおろろ  
月夜明やうぬほろ小出ぬ

首途

荊乃名祓きうし也松ころも 嵐雪  
日本橋右に流本丸尺ゆる東敷  
山は流ききりかるとてアんとるを



カ好くうらふ影子居るる心  
まらううらふ影子の居る心  
かきとぬくそ書にあること  
とそ松の枝をうらうあけり  
るややとととあけ松の葉 當歌

神宮のあけぬ

勢力こしやむあうらうあけ  
増上ををたうあけおとすは松  
ふ松の葉をかかると一尺はうら  
ふとふふふふふふふふふ  
よととととととととととととと  
東海ちちちちちちちちちち

て万幸をうらふ

系代やとくさなむらうらふ 全

瑞雲寺

けととととととととととととと 當歌  
免ららららら免も人たわつてぬ  
免は免らの葉をうらうはく 嵐雪  
うらうらうらうらうらうらうらう  
の松の葉をうらうらう  
相するぬらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらうらう  
人たとととととととととととと  
うらうらうらうらうらうらうらう



宮内女らるるおろろりぬりぬり  
ゆりまつきちりぬりぬりぬりぬり  
梅ふさむるおろろりぬりぬり  
かきかきおろろりぬりぬり  
あきさゆりて

るす子金具さハあーさのやと 其角  
るちん園北はは乃うつ山 子英  
出川子遊ををそそそそ波 鋤立  
本乃形を標ふくさるる士り 調栞  
去之月園子ぬらん山 路通  
秋のうさふきをさるるに 擽きり 上尺  
月乃照いぬりぬりぬりぬり 水花

るす子金具さハあーさのやと 其角  
るちん園北はは乃うつ山 子英  
出川子遊ををそそそそ波 鋤立  
本乃形を標ふくさるる士り 調栞  
去之月園子ぬらん山 路通  
秋のうさふきをさるるに 擽きり 上尺  
月乃照いぬりぬりぬりぬり 水花

るす子金具さハあーさのやと 其角  
るちん園北はは乃うつ山 子英  
出川子遊ををそそそそ波 鋤立  
本乃形を標ふくさるる士り 調栞  
去之月園子ぬらん山 路通  
秋のうさふきをさるるに 擽きり 上尺  
月乃照いぬりぬりぬりぬり 水花



捲人方豆粒うさう家後あり水 仙化  
大うこれ秋方さう水巾すきさきり 百里

瀬戸漆版

ま食の里佳しうま條飯うれ 桐雨

宇は宮十園子

その名を柳子かけを十園子 全

草は焼餅

飛々條焼はさうさうかり名ありたり 全

大あてんう工そさあゆさうとててて

うらにまそさあゆさうさうさうさう

うらふふも福さうさうさうさう

葉り並はええとあまの庭の福園女

宮川方さうさうさうさう

色あはれもさうさうさうさうさう 全

明記

鳴ぬまも物さうさうさうさうさう 全

何し中さうさうさうさうさう

カササササ

まをさうさうさうさうさうさう 全

伊豆本川

まうり船風ハ柳さうさうさう 全

伊豆越

山松方さうさうさうさうさう 全

約さうさうさうさうさうさう 全



花乃前に顔をうつし戸格衣全  
新ぬくやとりまうとく  
新うさかろ人おれんを新格全  
わー 曙  
わきーろ中まのまといひこの言全  
なうしをりさく  
中新くやと新まあつし丸川柳全  
卯月新くお中麻ふまうま  
やうをたうしけうし  
衣まうろく織しぬつしあー全  
おぬし白き久山まうし  
巧くうしお力花ハ種り衣ま全

さうはま

あまをまかりきまをまし人カカ全  
まそかけおしきし麻カうる南全  
法隆寺  
二まおもよりまおまカカケりか全  
水玉何とやうし橋まあうて西の東も  
おし入て白きをのそまうし  
又月や六日もまおまあまの似を  
そカお水の梅系にむし  
あう中平佐後不様うまの川全  
名うハ新カうし  
名月や山園日おさう先あさ全



気は力まふはけり上人のらむを  
 羨らる古俗ありくこのさうも  
 さうらるるありーとらして  
 月信ーおひのそそる所ありて全  
 海よりそしをほろ何倍あり  
 うつとて信の物その橋はとあり  
 一系ありさむらのとらして  
 あさむらや月人の程九思をるれ全  
 湖田よて  
 永泊力自あくと老人程の若 湖春

よ袋秋之類

初秋  
 と物よりを編むとてく一玉雲 幽山  
 初秋の風乃よしやとてき 三翁  
 空をい大ありや一和秋の風 帆雪  
 七夕  
 空をい此うんありとや廿七夕 才磨  
 星を中いり子瘠地乃瓜つらり 其角  
 けい空ふ家妹かきん初妙命 嵐雪  
 桐  
 空かくる相乃まうらーひとお 山川



草

新白工... 乃... 大坂 素山  
新... 乃... 秀和  
あさう... 百里  
新... 破笠  
新... 杜格  
新... 月下  
魂...  
新... 嵐雪  
魂... 湖水  
新... 百里

魂

この... 親... 氷花  
意... 入... 調柳  
施... 鬼... 映  
孟... 多... 涪橋  
月 附...  
小... 月... 佑德  
白... 月... 柳立  
夕... 月... 嵐雪  
二... 月... 奉白  
狂... 月... 傍門  
夢... 月... 秀風



菊花

九唱

其一 九日

嵐雪

葉もやうはゆくつらむ九日

其二 花もやうはゆくつらむ九日

かられ家の中よめ葉れ中よめ葉全

其三 百葉を折けり

葉も葉白葉そらふのなはあはれ全

其五 昔力たけのちかやうちかまのそら

ちか力ちかちか七人のちかうちか全

其六 琴

琴ハ強く葉くちかつては難うか全

其七 棊

葉も葉とふ葉よちか一人をくん全

其八 書

書を抽<sup>引</sup>ち葉よちか葉のん全

其九 盃

葉もさうり葉よちか一葉のん全

鹿

ちかちかちかちかちかちか 不障

田舎

ちかちかちかちかちかちか 桐雨

己巳九月十三夜游园中十三唱

其一

素堂

ちかちかちかちかちかちかちかちか



夕の暮らりてはつりのもぬくまのしほ  
くしうかきまに神さ出させし  
さじか月のしほくもさしほ

富士筑波ニおかり月をひらけ全

其二 寄菊

多れしや二あり月を等しく全

其三 寄茶

江をたぐそ南多に月の帰る全

其四

音了たぬころ月此十三夜全

其五 寄蕎麥

月に若多きを白とぬきき文

見しうり家そそしうらあより

月此からあまのしほ多きを花一ツ全

其六

畠中に雪を新血あり試す

筆をきき

冬血をたけりあまか月此全

其七

回隠相承しうらを

其八 寄樽

藤鉄少ちやしめ月の落る全

其九 寄蘿



きとも月に這わくし形意のまね 全

松ありぬも町を伝

其十

一水一月千水千月と子古した

フありて家所ひとる九月を四

袖につくふそ度分衣月 筆ッ 全

其十一 答

月ひとる振ちりぬる本乃万より 全

其十二 寄芭蕉翁

きよめろよよいハ波つ庵より月をそ

あましてあーの人ありはくーカ

傍ありあーもささーあのみ

きりぬりて本乃の海もまこあを

らぬふろと伝しきささささ

又月のふみえとて亀をぬねた一鳥

すさかさささー免ささささ月を

ふしぬいささささ思のあまいあを

せんさささ

はさささ月ハ肥ささささ人 全

其十三

園より降りた

ささささささささささ月象 全

礎

夜ささや積さささささささ 菊鈴



石打人も裸くさき山帯あり 鋤立  
草力も屋の竹ゆりるむきあきり 立志  
樞をくも踏まらうし 破息きぬ 山川  
まづつしきものも石の小あうぬ 氷花  
我もよ指さききさるすうぬん 巴風  
鼓やう石やうくあきんたき 仙化

野分

小まろく女中聖きんにむかひの草 了の  
陽りうり力お成這りぬのこころん 東眺  
多ふきうぬちりくまは異れん 立志  
いそし中ほらうの徳のよそし星 一笑

紅葉 附落

小男にかこしけちや下もさき 秀和  
名も底のぬきおんく事ちかりん 八木  
片枝らも方こあしぬきみち 百花  
おりのこふおまおあけり 二月橋 遠水  
蕨力らもよやくそくさる小石 嵐惠

落

さうしきし雲あも似さる落ふ 了の  
葉力らもよと志くそ風らる落ふ 伴自  
伊勢乃園に落るし くらは雲の  
地落とく中にさうりうり くらは雲の  
樹力らさうりうりくらは雲長は海



橘の多きまはらひてうほぬようれ

うほくも程儀のまうらまあ

すりーをまをををををを

角力しやの舟の舟の舟其角

たかしくいものま出さる

えまよりお二見へうしけれを 芭蕉

虫

秋乃秋よりなるを中裸に 琴風

かきうりや芦出ふうく所の中 舟竹

えんをりし何を業よ時ハさく 山川

産卵ぬ蜂ヒラメジとやうるまのこ 氷花

継ぎきといつちにさうらひれふ 紅雪

穰田ふあうく年々るつれこく風子

稲すり季乃字ぬらひくもさあ

百をとをうら

百年に一足きくぬいぬこか子 傍門

日くくくのまをたうくく親の聖少孫五郎

一は二るよはひきくを者んつ

親里のうを旅をうら

夕照

蛙蛤の聲をかきゆる西なりぬ 沾荷

湖乃かくく芦乃穂のくく 芭蕉



露沾  
習よよとくまふるるふふあふ露  
入月九層釈くも武若いこり  
柴乃算りて坐をあやとく  
山寺しるるも楓のさあうく  
ふとい身やと海さるく  
夕雲あけしにさるる鞠子なる  
白きさね様乃坊を飛越そ  
傍をりて探の程をさるく  
くくくくくくくくくくくく  
潤なき形見の鼓もつてそ  
何を焼中なり皆あや〜たり  
蕉  
蕉  
蕉  
蕉  
蕉  
蕉  
蕉  
蕉  
蕉  
蕉

沾  
荷  
蕉  
嵐雪

箱妻

立吟  
鋤立  
伴叔

相撲

氷花  
花蝶



投らばて被りて這入ささるる立吟

病後

すさみたるふなりぬ秋のそ水尚白

踊 祇園

あまのよて踊鳥のさるふ京午之

綿糸にふとり家までほろろ月下

業山子

かしーそそみうるる徑三四りぬ調柙

やしとほよそくさくさか原水

アム呂洞

この山鋤立

秋意

瘴まをて海京や秋方と田千春

まじそくくろ歩中秋のそ水嵐雲

秋方そ水女房のほろろ尺骨水花

いそそみる人ん秋のあつれ鋤立

七夕乃秋あそひ中あそ嵐尾

野のそ水月下

あそ月下

かろ舟行

秋のそ水みま舟行

とんいて舟行

柳乃舟行

そこのあやう舟行



権方かきりよし山の本のこゝろ子嵐雲

蕎麥 讀甲陽軍鑑

あらしそいれちまのてふまはあし京去来

茴香

うらわおのらまは朝露やうしの花 桐雨

用 露のたのめは極はれしをけり  
おもひい出れはれ

家ぢぢは何をぬふめすうまのち 叶加 上宅

あらしそいれちまのてふまはあし 叶加 水山

和菓さうり夕日まはれぬ山はけり 臥葛

いとしもふ釋とさまゝん社のおる 湖水

移す處よんて

里みろふと森たうりみる本はか全

昔々まゝとてく男にありりめ即ち 東雲

分る部

多羅繩力らうりしや終う草花うり 百里

あらしそいれちまのてふまはあし

四時をかくるよあやうたうり 葉 百花

層々敷力らうりにありりしや 葉 勇招

川きりつまゝくつ出さか 葉 團友

彫細を風ぬきまゝるゆあ 葉 湖舟

そよ〜いれちまのてふまはあし 葉 三翁



其袋冬之教

老若くぬと各一もふとく相中捕 露言

讚大黒

神カ内海ちよい女眉を守る一 嵐雪  
おのけちるるとのめ袋中かきれる 山川  
ほき一や海一十月の唐一り 未山

時ふ

雪相わらうさくぬき一何る中 立志  
ま履とるきり一そゆ 葉水  
茶を煮く一何る中かきにゆきえ 片雪

宗一やうり

何れもよりまよふ子たつるは何一と 才磨  
茶名もはれ干客の志る此小 山川

江口山々

かろうとさぬるるちにかきぬ何衆<sup>京</sup> 千之

柳

燈乃ちあや歌まかけしるる海 面 月下  
つとみぬ一歌を空る中好不 字先  
中一や一と一めは力あふぬ 傍門  
何れもやま一舞たつる山丸 弥 百里  
小窓とつよみちまきしるる炭俵 和賤

足袋

足袋とておけるお踊を女房法 嵐雪



草是堂中あはらむる福をらむる 嵐尾

木枯

こからしに吹倒さるし 座を以て  
一丁に風やせれらるる 木枯  
こからしに風やせれらるる 木枯  
木枯ふ告たるを 木枯  
木枯ふ告たるを 木枯  
うたふともあはらむる 山流  
湖水  
原水

十月雁

こからしに吹倒さるし 座を以て  
十丁に風やせれらるる 木枯  
言滝

三翁

三翁  
東石  
北鯤  
其角  
吟水  
宗派  
氷花  
風洗  
和賤  
山川  
鬼貫

帰花

知をこすあはらむる 木枯



松風をうしろ山をかくり花舟竹  
やとり木北窓をみるしうらな  
原もみ花梅はらうかきうらむ  
秀和

雪

初雪平らやこしあき昔乃社  
門乃雪白とたういめそがくふ  
きりくハ志くぬ梅をくらきの雪  
きりしうきにあまむけうらるる雪の形  
夕もるうらうきめくあやうらるる  
白雪ハ海乃隈のち喰まじり  
はめくうらうきよはまきんてあけり  
一花詩乃るる雪をせ外のを  
兆風

初雪を此白雪とてりぬ国や  
初雪もふにあやうハなうらり  
止行

霜踐至堅氷

初雪ハ麻乃角もたすれり  
うらうらふきうらうらく水抽るれ雪  
宇門

海中

うらうら雪は雪の影ゆき風乃非  
竹井

霰

あけれみあういさうよそちかり玉  
拳白

霜

雪乃あきゆ梅乃ききく古抱  
風子  
は乃あきゆ梅乃ききく古抱  
達曙



うゝ海北神前子、霞雪江尾の  
花より七あゝ

雪お枯子一花咲くかきくし外 呂洞

凍

田子そして益なきほを氷か 泊徳  
西急一う氷力よおあうれり船 青人  
風海も氷もまのいりありと 立吟  
玉亭手に居るまかちのうなりか 他者  
まの隈いそくあ水書とるり氷 花撰  
古他乃波亭とるるあを居り氷 傍門  
濁り江も凍と冬一あめ花 一口  
とあゝと氷めり越寸小氷か 傍門

海鼠

あつ多き海鼠そくこく船快 露沾  
海鼠冷かきとたふいのうお傍連 嵐雲  
蛎を居る居るに  
終るハ石<sup>か</sup>ま<sup>き</sup>二<sup>か</sup>一<sup>ひ</sup>り<sup>み</sup> 全

江豚<sup>鮫</sup>ちと鮫ふよう似ておはし 鬼貫

米にかゝる鯛<sup>う</sup>を<sup>あ</sup>くそ  
亦君のさうりや居るやをの飯 山川  
とまよつとまよつと飯<sup>う</sup>を<sup>あ</sup>く 氷花

半醉半醒辞

袿<sup>半</sup>鮫<sup>半</sup>を<sup>吟</sup>時<sup>え</sup> 曲水







ひとわりや一ちり此野乃りまはる 百花

臘八

猿ハ肌牛ハ胡麻喰 雲霞ありぬ 紅雪

あまのれ白きうとをうてねくを

君アんや中流よりうして 葦乃桶 嵐雪

煤掃

牛鹿野中煤をまきぬと 富士乃山 東順

すしをまきハ暖うあまを 家係うぬ 調栞

まて竹乃世くを戸てぬ所 家乃 菊峯

煤をまき何やうたう寸 家乃内 月下

鉢扣

刃をすくと下踏をくつ 中此節なき 氷花

ちちたてき君乃の国をまきさす 傍門

節季候

せきをまきやうつ天をまき 伊墓山 卜と

夜配

夜をまき四町一をまき 全

歳暮

年乃と急ちつとまき 月下

赤虫の石白免とる 家乃うぬ 楸下

古層はくしき人小きとまき 嵐雪

世話

二月十七日 秋後山をまき

徳



ちんちんハヤリシ夜ニヨクニカ 芭蕉  
龍樹菩薩乃禪陀伽王ニカ  
貪欲を去ルシテ  
人近煖煙始雖悦後増苦乃文の  
こと

欲

雁鴉のいゆる時行一歩は其角

逍遙鵬鷲之間出入是非之境

彼是

とぬかるまはむとるふふ風雲

アツク

彼もたかくらふハヤリシ花

もた

そそぎぬたそ紙小篋も人 舟竹

むら

おそ免平柄扱乃底の十文字 衛門

たん

おそ横櫓乃ちうい子切らん 琴風

うそ

枯蓮のわくうさあろーは法多 笠凸

せり

観る一観極もそそぬそろ 函亭

そそ

花乃本中かあうそそ下り級 菊峯



千道のすま

祝書 蠅乃竹のまのなうりきり 百里

しづり

いよひハ何よりうらぬまはら 月下

いぐさ

十月や余は一もゆき人も耳を 尚白

こもろぶさ

寺しのほほるるうらぬとま 桐雨

よひすま

うらハ小坊を多くくも 鶯歌

あさしほ

きかてはほろまじり 山川

せら

虫いりふまことま 樺のまま 青女

まんく

一舞かろうきあよりまて 其角

ぬきよ

相植乃竹つてあまふま 山川

物名

槻卯木松椽桐推桃梨

月うらきまるとちきり 卜宅

賀茂鳥羽 八瀬水野 淀

鴨 立吟

蟹津岸 瀬溝 零帆 洲井 岩波



ふつと一樹乃方を干スといふらと 琴風

鶉鷺鸞鴉鷓鴣鷓鴣鳴雁

うつくしん時りて情く麻尾の列 菊峯

教筆

頬赤子こくねあろうれ正軍 舟行

潘安仁

香に身をまじり花袖くぬ 全

松恒女

香かこしり中二ををたひより 全

七福神

寄辨才天謚

家子とみふ引出おせん花井さ 琴風

寄恵比壽鯛

獲鯛笑をいふにこしらう下 全

寄大黒胤

幸乃教りこくこま一白羽をま 全

寄女を人麻

角屋とわと見えや中存の奉 全

寄福祿壽杖

ゆきんやうかお遍思うお杖か 全

寄布袋蝶

いしや襟たよりきもまもまの袖 全

寄毘沙門絳

糸あそい甲女星う降のうけ 全



七小町

山下

あそび多しとやあぢやむけとん成トト

多紙洗

うそこの中枯れ見一その悪作全

通

初めはあつたありのけや雪の雪全

卒都渡

あつたつとつとあつたつとつとつと全

雪ち

七のう小ぢちをかきかぢと雪全

雪ち

うと中船の少やと和集力船全

雪ち

年終り小所りあせりあり全

かおのつとつとあつたつとつと全

あつたつとつとあつたつとつと全

足乃血戸本所<sup>サケ</sup>と裂々ん本情誠山川

月乃夜

さし足も月に目あそびと全

雪

年乃あや細ユとつとね一楯<sup>サケ</sup>の割全

雨乃夜

暮よたつと香れとつとあつたつと全



風たが

こか〜もあつれとらぬけ露の臆 全

田ふ

是すよん帯刀も取〜小ぬ志る 全

きみきき

つ〜そそのきのは志もんを 全

廻文

松乃木のききやと中ほ〜新乃美ト宅

た〜して浪きら〜もれつ〜氷花

立志

味淳子ききとぬありおと花

山楸乃芽を探らぬら事 嵐雪

風通ふぬ室れ介とあ〜こふ 柳立

床よりと〜も徳乃いと〜子 志

照月ハモる乃柳木母そ〜 雪

松ヒツキ等あ〜り〜あ〜てた〜 立

き〜ぬ志練乃陰の袖乃心〜 志

思いたとこと〜り〜以後 雪

汝乃自を風呂巾の襟のく〜 立

又乙〜とち〜り〜水 志







袖よりて様たちを不況麻村秀  
文らるるやいし水雪自れり  
立

笠より越をは根乃流を柳式

举白

大葉乃茶摘小葉をいりて

嵐雪

より之擦越を已りて

李下

移り干以紡を風若

氷花

釣籠井のころりしと月乃秋

雪

人乃刈 了後よりきよ水綿

白

蒲の穂乃ほくそもつ子も建

花

裕ぬらさあはらう

下

年をくそくくそ海いゆ

白

寒 亦も勇者城を志し

雪

百<sup>三</sup>分のをうらり水乃

下

芽もたをくそ大割若

花

子并に芽をく牛もよ

雪

そみ日子葉をく

白

星乃小積山を

花

雪乃い合せ人も

下

糸乃小あゆみを

白

月もこころを

雪

大魚乃徳川

下



上<sup>三</sup>に志<sup>二</sup>さ<sup>一</sup>ふ世<sup>二</sup>を<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>し<sup>二</sup>も  
つち<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ふ<sup>二</sup>女<sup>一</sup>を<sup>二</sup>志<sup>一</sup>し<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>を<sup>二</sup>秤<sup>一</sup>  
情<sup>二</sup>を<sup>一</sup>し<sup>二</sup>て<sup>一</sup>い<sup>二</sup>ふ<sup>一</sup>ぬ<sup>二</sup>石<sup>一</sup>麻<sup>二</sup>白<sup>一</sup>  
胸<sup>二</sup>を<sup>一</sup>割<sup>二</sup>か<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>を<sup>一</sup>う<sup>二</sup>り<sup>一</sup>も<sup>二</sup>酒<sup>一</sup>の<sup>二</sup>氣<sup>一</sup>  
何<sup>二</sup>を<sup>一</sup>依<sup>二</sup>る<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>乃<sup>一</sup>蚊<sup>二</sup>若<sup>一</sup>責<sup>二</sup>下<sup>一</sup>  
何<sup>二</sup>も<sup>一</sup>い<sup>二</sup>も<sup>一</sup>鳴<sup>二</sup>り<sup>一</sup>も<sup>二</sup>人<sup>一</sup>乃<sup>二</sup>涼<sup>一</sup>  
か<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>か<sup>二</sup>さ<sup>一</sup>り<sup>二</sup>も<sup>一</sup>君<sup>二</sup>も<sup>一</sup>同<sup>二</sup>来<sup>一</sup>  
う<sup>二</sup>も<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>を<sup>二</sup>み<sup>一</sup>ゆ<sup>二</sup>り<sup>一</sup>お<sup>二</sup>守<sup>一</sup>候<sup>二</sup>并<sup>一</sup>  
日<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>も<sup>一</sup>も<sup>二</sup>ぬ<sup>一</sup>り<sup>二</sup>醒<sup>一</sup>を<sup>二</sup>袖<sup>一</sup>  
石<sup>二</sup>葛<sup>一</sup>に<sup>二</sup>油<sup>一</sup>煙<sup>二</sup>下<sup>一</sup>一<sup>二</sup>比<sup>一</sup>ま<sup>二</sup>り<sup>一</sup>乃<sup>二</sup>月<sup>一</sup>  
蟻<sup>二</sup>蚋<sup>一</sup>も<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>を<sup>二</sup>た<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>し<sup>一</sup>戸<sup>二</sup>袋<sup>一</sup>  
社<sup>二</sup>風<sup>一</sup>子<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>る<sup>二</sup>も<sup>一</sup>肩<sup>二</sup>も<sup>一</sup>て  
花<sup>二</sup>白<sup>一</sup>雪<sup>二</sup>花<sup>一</sup>下<sup>二</sup>雪<sup>一</sup>白<sup>二</sup>花<sup>一</sup>

之<sup>二</sup>世<sup>一</sup>乃<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>し<sup>一</sup>も<sup>二</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>二</sup>り<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>候<sup>一</sup>  
下<sup>二</sup>か<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>り<sup>一</sup>て<sup>二</sup>車<sup>一</sup>も<sup>二</sup>通<sup>一</sup>せ<sup>二</sup>腐<sup>一</sup>標<sup>二</sup>白<sup>一</sup>  
望<sup>二</sup>業<sup>一</sup>思<sup>二</sup>ふ<sup>一</sup>徳<sup>二</sup>祐<sup>一</sup>若<sup>二</sup>終<sup>一</sup>る<sup>二</sup>倉<sup>一</sup>  
必<sup>二</sup>望<sup>一</sup>か<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>し<sup>二</sup>乃<sup>一</sup>當<sup>二</sup>匠<sup>一</sup>筑<sup>二</sup>波<sup>一</sup>臺<sup>二</sup>下<sup>一</sup>  
夏<sup>二</sup>や<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>し<sup>二</sup>此<sup>一</sup>困<sup>二</sup>風<sup>一</sup>以<sup>二</sup>後<sup>一</sup>  
花

此<sup>二</sup>山<sup>一</sup>乃<sup>二</sup>や<sup>一</sup>男<sup>二</sup>堅<sup>一</sup>却<sup>二</sup>掃<sup>一</sup>を<sup>二</sup>女<sup>一</sup>  
立<sup>二</sup>吟<sup>一</sup>  
言<sup>二</sup>れ<sup>一</sup>し<sup>二</sup>久<sup>一</sup>と<sup>二</sup>扇<sup>一</sup>を<sup>二</sup>て<sup>一</sup>乃<sup>二</sup>寸<sup>一</sup>  
嵐<sup>二</sup>雪<sup>一</sup>  
か<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>し<sup>二</sup>も<sup>一</sup>硬<sup>二</sup>明<sup>一</sup>進<sup>二</sup>え<sup>一</sup>乃<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>し<sup>一</sup>  
全<sup>二</sup>吟<sup>一</sup>  
あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>し<sup>二</sup>此<sup>一</sup>公<sup>二</sup>標<sup>一</sup>不<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>し<sup>一</sup>座











客に庵怪乃とやんやうさハ  
新風呂を入和けよむ乃肌  
柳乃意とよれ又とらち  
桂男もくろくやうむるまの月  
舟賣下流かきりあわら  
於るは胡<sup>カ</sup>産かく倍併なり  
孤つう水乃又とらち  
ほ水とと中白粉乃をぬの玉  
うき名も良よ中匠乃妻  
月ハらん足に海ありつよはあさ  
稻<sup>カ</sup>吹<sup>カ</sup>色ハ——本食  
鬻<sup>カ</sup>ととつふ——海乃於衣  
花凸雪

蚤<sup>カ</sup>ろくゆる影<sup>カ</sup>ハハ  
さて鬻<sup>カ</sup>よ奴<sup>カ</sup>き怪<sup>カ</sup>の妍<sup>カ</sup>款  
乞もたうきけらお娘<sup>カ</sup>と母  
比<sup>カ</sup>那<sup>カ</sup>ち垣乃後一にぬらつて  
鳥<sup>カ</sup>叫<sup>カ</sup>之度肝<sup>カ</sup>子<sup>カ</sup>大<sup>カ</sup>有<sup>カ</sup>  
芥乃多ふまの老<sup>カ</sup>えん<sup>カ</sup>沃<sup>カ</sup>埃<sup>カ</sup>  
襟布ちむ<sup>カ</sup>款<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>——西  
水<sup>カ</sup>山<sup>カ</sup>上<sup>カ</sup>妹<sup>カ</sup>の多<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>裏<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>  
桃乃系志乃る湯肌うら<sup>カ</sup>  
ふの種<sup>カ</sup>ろく中<sup>カ</sup>祇<sup>カ</sup>室<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>お<sup>カ</sup>目<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>  
曹乃降<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>  
花凸雪



葉乃多や瓶も修るもろと  
 葛も俵をかろふ小庄一と  
 串まふも月さしてんと向と  
 中酒子えらるる重此新飯  
 定ちく肌力瘵も吹く  
 扱ふ上さく人ねろく板  
 四帰射四乃きと船に泳  
 小田の系あろふふまらち  
 瀬邊の頂考り多ふさ  
 下草あろふふ交りまらり

某角

百里 嵐雪 角  
 雪里 角 雪里 角  
 雪里 角 雪里 角  
 雪里 角 雪里 角

人きくぬ大小さくも夕月  
 やり多うゆく暮るは後のも  
 鱸とハきくゆらん生ゆ所  
 解くも悪力首尾あり  
 女文書史方りまらるるや  
 膳タ悪き弓とくみ困  
 雲本此百馬接ゆるも山  
 さくくも多き門力か人  
 雲一そハ鬼、物を次まめ  
 派力もはるるハふつとぬ  
 産をとおく母此たけりも  
 志くくもみぬぬまひとの

里 雪 角 里 雪 角 里 雪 角  
 里 雪 角 里 雪 角 里 雪 角  
 里 雪 角 里 雪 角 里 雪 角  
 里 雪 角 里 雪 角 里 雪 角



大年や戸のりきき北あらしほり  
 塔よと峰く一糸力り雪  
 うきひ雪うとさうを捨小磯抱  
 沖力ふめり日に海松をり  
 玉つらり難波のまき正古船  
 塚のちりくもはくす掃花  
 を信力りまふ一葉つきく雪の月  
 掃雪うりた衣を袖ひくはる  
 船ふ磯靴を膝うを世れうり  
 雪月の信くははらあをり  
 けしあまあそぬ涙もかろふ  
 廿方雪ま北暦月日くうあき

保志もやとすりくきりあま  
 お等んくうり終まなくや  
 里雪

崖かーらくうきき妹く泪うり  
 うきし子く雪ま北終る門立  
 猶自に梅花の影を中くは  
 若かり力り砂ころいそり  
 志くくくと塔塔や磯をきき人  
 と新も雪力り多あてこく  
 桔梗あふあそ北雪の形は  
 秀和  
 舟竹  
 嵐雪  
 和  
 竹  
 雪  
 和



親志くまをて挽く泣めり  
人乃佑うりかづ一取妻  
目瘡をさす此君乃贅指  
灌仰を多子挽て華る卵の底子  
蓬うりと力て流る朝記  
破る元隆クボ一人にこころしてハ  
繁力く落くを長生若心 恒  
三ヶ園我流ふかぬそ流たり  
暮黄蘗下ゆら月おまらお  
云乃奇醒う井條子書思あ  
きうう書カク天穿力か  
衣より書中肉陣凡立つぬ  
和 雪 竹 和 雪 竹 和 雪 竹 和 雪 竹

財ツカ双六をき 若うそ 折ツ  
腰ウシを 屏う 信あう 後向  
このんか したのん 一と一と  
細尾 乃 鶴めとと 中多かり  
車ワせりむさうりきり  
臺ヤニ 冬 伍もろハ流るり  
恥ある男 先乃小おとと  
いつくこをうく 醫志の志くん  
の事さすおハ書ヒ 鬼  
節季乃乃既の井乃 けり  
勝カい久みく志を 齒カムうを  
銀ギン乃てあ 月費を佩ふ  
和 雪 竹 和 雪 竹 和 雪 竹 和 雪 竹



ちうりーのふを人乃そお中  
猶好九うは後程身のをあー  
多沼時ハ新降存子か多  
神と五月十三日をむきり  
空冷し一カ多をぬ浴柳  
竹

寒陽堂  
月下

燦とさそ何やうたを家角  
序きの門カ子で賣子一  
多量ハ法願人ハ隣みく  
雪年とくくは夕名月  
嵐雪  
桐雨

雪歌ハ鐘のとき觸あはる  
枚カカくさもくさき  
本陳ハ結此あはる  
係候初ハ白ハ暑ハ  
帷子カ首飾ハ水ハ袖あ子  
雪新とくさハそのを多取  
ねりしうふ順程くささの上  
墨くささハ先ハ後程の湯燦  
新妻に人よハあはる  
さしらハ男くさハ  
屋くささハ山田カ結ハ魚  
何子あんる乃家ハぬらん  
雪  
雨  
雪  
雨  
雪  
雨  
雪  
雨  
雪  
雨











附録

多に附録をなすは遺稿乃其のハ先めと  
七部抄巻と影して其の弘光より始ると  
新千原花乃七集を小刻名冊一  
冊としていふ七部抄巻を名をかきし  
た抄巻とははきし一冊はうまきの  
巻を抄巻に加へたもの

菊舎主人識

根草や茶乃をなす葉ありく 菊  
あつしやきけふぬかきし 半殘  
ほめりかいらもほきまきと 土芳  
ねくさた 草の 名 品  
中明の七つ起きたる 茶信り 殘  
ひさこねれを付後し 菊  
秋風より枝の戸をく 簾入 品  
小僧のくさり口あき 茶  
やまくと夫洲のいふの 菊







風ひえ初る牛一の子乃能  
 衣あまくれ類乃裂織袖もぬ  
 ちまきハ人の何へ入る。身  
 跡風や吹部もまじかい見えぬ  
 糸もとほせと追る幸出ま  
 ちくくくとゆくのふもむむ  
 もまけさまま左靴あきら  
 品

風流乃まきとまやわしな  
 諸女も草履子布のふ乃い  
 砂川よひまも又空の傾く  
 門まきとま路共の麻おさ  
 月乃あま見えあぬ大もまの  
 志ゆきまふ山も今ハ涼しき  
 庫裏施のまともまのま  
 のまひまのまとま六尺  
 二つ目しう人もまま  
 涼葉  
 芭蕉  
 青山  
 曾良  
 濁子  
 嵐蘭  
 岱水  
 怒誰  
 嵐雪



心もろくは 仮多ふ名とす 紫  
朽燈とくそく 執と強一合 蕉  
木質泊りハ不純走まき 山  
入新も細さ言神乃 朔の月 良  
塩と若うくく 漸き人 子  
樟チリは隣々白を撰出 曲水  
小紹の文派送 村 誰  
いさふ 割友居やさめらん 紫  
寺乃 樹木を流き 言 水 仙  
入物も 田畑を 似きく 竹 瓦 泉

拾 五

河くさすハと今分公 君 香  
去くぬ 養人 参乃 養 不 山  
又年くく 強た 一き 蕉  
火桶す 蒸ぬ 煎の まは 人 子  
葉まの 影 少く ぬ 白の 権 葉  
西の どの ぬも 掃て 於め ん 香  
おどけ ぬ 敷ハ ぬの おり 人 山  
葉 付 ぬ 風 呂云 身 ぬ 候 勢の け 柳 岱  
先 日 和 した 秋 乃 夕 くれ 良  
掃 足 世の 留き ぬ ぬ ぬ 掃の 目 蓋



梅前連しく小舟もよほ山  
 杓の尾房さけくるとの童  
 碓井乃きりしけり足取  
 曳後をうに中 ~~一~~きすれく  
 横垣車しふほりきくう  
 やよまきし者を送る花の若  
 葉と冷くも乃人ふ憐き  
 子 出 葉

夕暮やまほし場をくる甚なむ  
 西日をとせく敷乃下前  
 ちりくとはけり抄のついで  
 乃まきりかこる子人こ  
 一粟の積る酒罎小昏の月  
 稗すノ粒夢より庭の地まね  
 ね草も小傍もみねささくれを  
 けこゆれ半も人よかしく  
 巻下乃けりきふ跡をの口ゆて  
 為有 宿 惟 奴 風 奴 宿 然 何 然 宿



持の諸まくり一庭籠るる  
 ねむりゆりゆりも多佛写し  
 つはら回くりけり夜は時  
 めさくくと川より空をたきの影  
 茶乃味あまはは里乃稻  
 月影子訓流乃わづれ言うて  
 雲乃乃真なる初流乃覚流  
 花のまふ峰ぬ鳥のまむさ  
 土りりうづれ半程乃穴  
 湯出ふ田今夜共のま乃通り

拾七

伊勢のまくりと料印先と  
 榻の本とすらすと他のつらり  
 尻もむすたぬ虚言とくく  
 係をたふ後子眠るま乃有  
 きりしむと死さや程の中  
 秋もたや田舎裏奥くぬ  
 合点乃やぬまの出てす  
 ね乃をゆふはつらうま  
 まは抱付くのもく谷  
 作山子かりまきとてお松善清

依 松 露 如 松 夷 乃 川 姑  
 依 松 露 川 如 行 松 星 夷 乃 川 姑



日やけ島も上田乃か来星  
 夏乃秋も明くさける色の家  
 川 負かゆりく智とりりり  
 行 原家八みの中ても言はる  
 星 此月あふおとる 揚 巖  
 始 むううう花子日ら照りるう  
 行 事うとぬあうもさう一  
 行 行

幼草やまじ日殺ゆめ秋の色 芭蕉  
 青き草も 濁る 谷 川 岱水  
 中より居村の夢は定りく 史邦  
 さしと月小豆瓶乃蓋 半落  
 塩付く 錫吟久経の茶枕 嵐蘭  
 あてくこそさう草乃引もく 蕉  
 年あふハ土持ゆる夕る名 水  
 流乃乃落温泉よ流ゆるの脊 邦  
 糸苗の茶と只さる乃上 為



中々〜ふ〜〜〜〜  
 何れかの蒲室は君丸く寝く  
 物事〜ち〜〜〜〜  
 月〜〜〜〜の隙止む星切り  
 子箱の傍ふやめく刈太豆  
 胸穿〜赤起さ〜秋乃風  
 春田〜赤子とゆ〜小坊を  
 急中の赤〜〜〜〜去のト  
 伊〜井〜美と〜〜〜  
 春風〜去〜〜〜〜  
 葉 葉 水 邦 水 葉 邦 水 葉

拾九

の〜口〜〜〜伊丹流白  
 琉球子〜〜〜乃表〜  
 是非は隙ハ上〜相やく  
 足〜〜〜〜〜本〜  
 婿入〜〜〜〜  
 袖〜〜〜〜  
 月〜〜〜〜  
 公事〜〜〜〜  
 傘と〜〜〜〜  
 葉 葉 水 邦 水 葉 邦 水 葉



乃る目も無し一牛の目も  
 出店と云も居居の出り  
 干物つと云も精進乃朝  
 小松のまきと云もと云  
 結末と云も板敷のう  
 人續く毛利細川のふ  
 多も呉せり維子の帯  
 葉 水 蕉 葉 邦 落

拾十

久しやと云れくと初産  
 核たも女を誘ひ越来  
 借ハ世守様の居掃産  
 ようと云も一瓶乃酒  
 月明く灯火と云も海の上  
 碇乃と云も吹秋乃音  
 半蠅子裕持と云も羽織  
 古位あそびと云も女石  
 桃灯と云も熾婦乃言  
 去来 芭蕉 其角 嵐雪 来 雲 角 来



中形下ろえ乃 枝本 蕉  
を後りて昇よる寺の背戸 角  
つむよ多る 後ま 押下し 音  
仇人乃みふかくと氏と控 蕉  
けりけりて 業言乃 音 木  
美まは昔 後ろの音も 音  
橋やせー 舟乃月 歌 角  
更加まよ 会合す 笑ふ 櫻え 木  
毛種とー 記古西の初り 蕉  
ころめり 庭の下ろり 十 万 家 角

拾十一

月も何財そ 醉さあ乃月 音  
たろくく 後ろを 後ろの 音  
莖まく ちりー ぶ 筒の 節 木  
りりとも 支那の 後ろ乃 行 燃 音  
四ツの 知 ちりー 八 万 家 角  
鼻つさ 心 置より 先の 生 者 木  
ありりよ 扇の ぬ 串の 音 振 蕉  
縄切く 柴 木 音 花 かつく 角  
きりよ 柴の ちりて 音 音



塔主君 日光清代末勲をせまふ  
唐徒氏 國田氏にちあまふ

後の方袴よりけー衣アハ  
牡丹乃をとぬむ 庚 切 千川  
後表も月ハもぬ形し  
望くしそかく 経路と好を 左 柳  
吉より公家あふむのをさる 川

拾 十一

出口とまる 金山乃 砂 麓  
吹傍を松も起さす 社 柳  
つ門も葉のこまも 婿の家 葉  
大の子孔あまぬわさう 肥 山  
福すす 白を信ふ 中 川  
衣の厚を曹洞宗の夕つと 麓  
漱乃 筆より 山 山  
ひまかり 柳ハ 袴ハ 地ハ 川  
美子出たあせハ 山 山  
巡礼乃 かつら 松の おう 麓



見よりり 只りり 傳へ報へる 蕉  
 空ふんと 雲ふと 雲ふと 雲ふと 山  
 相へ 梅 けり けり けり けり 架  
 妻 傳 傳 傳 乃 妻 と 雲 後 り 蕉  
 あり 雲 へ けり けり 片 雲 乃 輪 船  
 陽 下 けり 乃 信 志 下 けり 同 を 結 兼 せ 蕉  
 空 の 中 けり けり 入 けり けり 風 柳  
 秋 白 子 子 首 乃 葉 子 菊 物 せ 川  
 酒 や の 門 と 叩 けり 月 の お 空  
 人 足 の 貫 月 引 合 けり せ 包 ち 舟

必と 務 せり けり けり けり けり けり 蕉  
 叢 と 目 けり けり けり けり けり 破  
 傳 出 せり けり けり けり けり 船  
 陸 心 の 雲 けり けり 雲 せり けり けり 柳  
 中 けり けり けり けり けり 門 の 合 けり 舟  
 陸 心 の 雲 けり けり 雲 せり けり けり 舟  
 中 けり けり けり けり けり けり 川  
 けり けり けり けり けり けり けり 蕉  
 蛙 の せり けり けり けり 苗 代 破







車をこらへ漢書も歌の安んぬなり  
 志らむを松およしとみよきたて  
 ろく東進徳のけさたさる鳥羽む乃  
 くらんれせとをわらむのあかく法  
 たららめやとまこのをさるま  
 一をかさくもむのえん申たの免  
 る小くそ いせ人ぬり庵の獲車

七拾段

東三条通寺町西

蕉門俳諧書目録 菊舎太兵衛藏

七部拾遺 先の七部集に洩くく七集を  
小刻を 全二冊

鶴のあゆみ 飛舟し紀行 熱田三秀仙 一ツは  
松乃実 初 後 其 節

四部録 冬と秋を評ありー句合乃書 未刻全二冊

田舎句合 蕉翁評注 春風発句 蕉翁評注  
蛙 合 蕉翁評注 四季句合 秋湖春評 冬芭蕉評

格外弁 冬と秋を評合し活法ありー教くを法系  
を接華しと論せし書し 一冊



三草紙

白紙一 志多紙 玉双紙  
全三冊 蘭更技

たとふは門人に著ふあり一 抄系を伊勢出芳  
とよ記とらなり大工伝説ふまあるよし

芭蕉談

全二冊 肥後文曉著

たとふは門人小舟孫のし抄系を玄来小松守より  
ふ通あり一を長崎印七も記と一 書なり

冬北日注解

全二冊 浪華升六著

法家乃後とまゝく華々くく解  
系に世工傳系と稱する抄系とのを

かけこ

首玄にまま書とか古今法名家の白  
あつて抄の伝説も書のかい 全二冊

道乃便

古人明水の著乃乃及抄系を  
刪補し書い 全二冊

此書ハ蕉門傳説の版を多く古抄の白を華々く解し且白  
付た乃仍法よりしてハ号古系を抄華々く解す乃の佳境は

梅翁宗因發句集

全一冊 浪華一炊菴著

世説

たとふは蕉門人乃乃り状をまゝ  
全五冊 蘭更選

芭蕉翁消息集

翁乃書梅傳説ふまあるもの物語をあり  
并し同抄系をまゝん 全一冊 蘭更著

去来文

去来浪化伝説諸書乃乃文并よとこの詞と  
つし一巻去来乃乃まじり彫刻凡 全一冊

麻か

能傳ふまある古人の書稿抄系あり  
全一冊 栗津 重厚著



一夜四哥仙 樗良 葦村 几董 嵐山 附錄葦村 全二冊

同續 曉臺 青蘿 几董 月溪 附錄葦村 全二冊

舊門 六家集 樗良 葦村 麦水 全六冊

中奥 今考し舊門と称する家多くは六子より少敷實に葦村  
中奥の名家其家と撰集六家をありて并伝と係と云ふ

四季 詞寄 袖巻し子 懐中本 壹冊

四季 詞寄 糸車 後二巻白白此後とある  
百人九白をありて 懐中本 一冊

葦村七部集 各極り焼失せしむる  
未刻 小刻と云ふもの 全二冊

其雪敷 明 鳥 一夜四哥仙 桃李

繞明鳥 五車及古 花鳥篇

同文集 青聖池行の序の叙  
未刻 収まらざる 全一冊 洛 月居輯

玉藻集 夏七 冬月と云ふ名と云ふ女の  
全二冊 洛 葦村著

樗良集 發句 附合文章 全三冊

樗良拾遺 毎の巻樗良史の傍の人の麦林の詞を破りし  
葦村を中興とし其家傳あり今二集と合撰せしむる  
全二冊 追加して

百家仙 中奥舊門名家百人試ありて  
全壹冊

八仙哥 名家支味あふ八仙八巻をありて  
全一冊 洛 夫左著



若葉集

今河名を三十二人系乃逸多像と加ふ

全二冊 玉屑著

伊丹風流

鬼貫白選七車ホリ  
全一冊 湖東此系英偏

今風流

四季發句集  
全二冊 洛其成偏

此書は付法園の吟調とあるが古くも四季の發句とあり  
本と梓川によして入集乃玉句と投し終らんが以希ふ  
揚志ろと  
とるの附合七ノ集日後は拾遺ホリ  
ゆるのの叙巻をのりむ  
車更輯

享和二壬戌九月

蕉門俳諧書林

京三条通寺町西入

菊舎太兵衛梓



